

(概要版)

第3期東みよし町地域福祉活動計画

「自然とやさしさ 心ふれあう福祉の郷」を目指して



令和3年5月

社会福祉法人 東みよし町社会福祉協議会

第3期東みよし町地域福祉活動計画策定委員会

1. 地域福祉と地域福祉活動計画とは

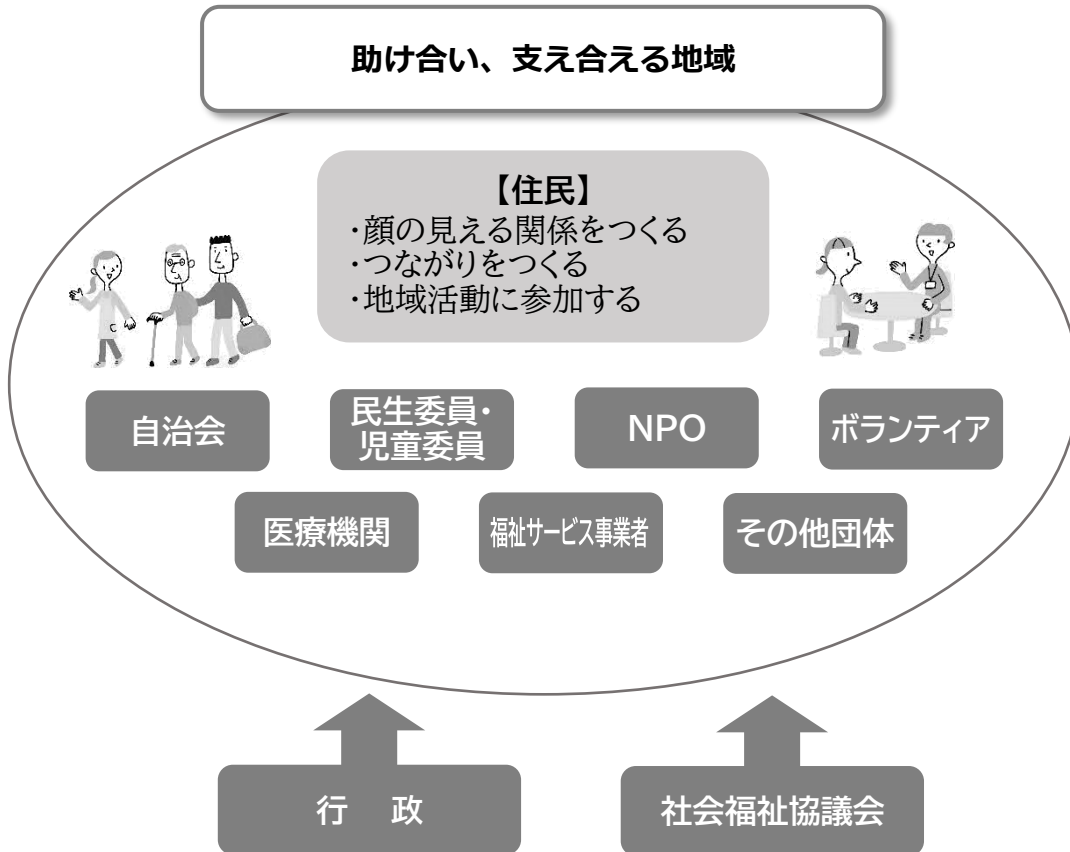
(1) 地域福祉のイメージ

地域福祉とは、子ども、高齢者、障がいがあっても、住み慣れた地域で自分らしく幸せに暮らしたい、というすべての人の願いを実現するために重要となります。

- 様々な担い手(町民・事業者・社会福祉協議会・行政)が互いに協力して、地域の福祉課題を把握し、その解決のために「自分たちにできること」「皆で協力してできること」等、自助・互助・共助・公助の役割分担を考えること
- 課題の解決に向けて、様々な担い手が協力しながら



■ 地域福祉における担い手と役割のイメージ



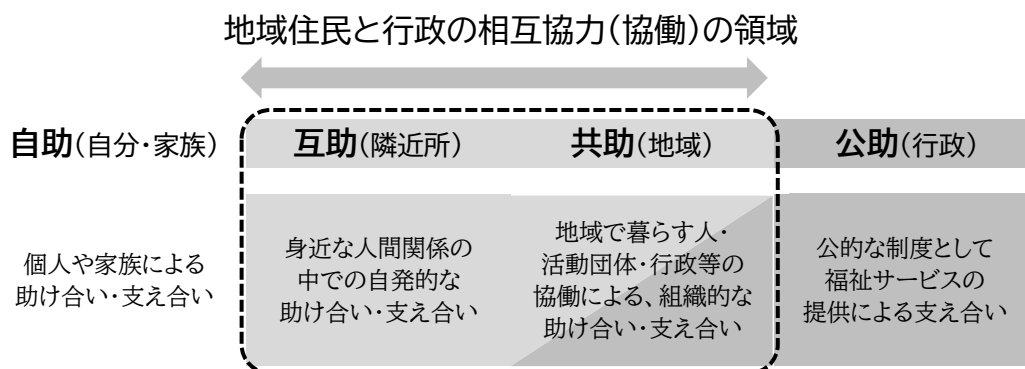
総合的な地域福祉活動の下支え・公的サービスの提供

(2)「自助」「互助」「共助」「公助」で進める地域福祉

地域には、高齢者、障がいのある方、子育てや介護で悩んでいる方など様々な人が生活し、多くの悩みや課題を抱えています。このような多種多様な生活課題に対し、自分自身や家族、隣近所の手助け、地域での支え合い、行政等が行う公的支援や福祉サービスで解決する仕組みづくりを考える東みよし町地域福祉計画との整合性を図り住民、地域相互の連携による地域福祉を地域住民が主役となって進めていく必要があります。

自助	：自分自身や家族で解決することを考え、対応すること
互助	：隣近所の手助けなど、身近な人間関係の中で助け合うこと
共助	：地域活動・ボランティアなどによって地域で支え合うこと
公助	：「自助」「互助」「共助」でも解決できない課題に対して、行政等が行う公的支援や福祉サービスで対応すること

■自助・互助・共助・公助の役割イメージ



(3)地域福祉活動計画とは

少子高齢化や地域の過疎化・つながりの希薄化、生活の多様化などによって、ひきこもり、生活困窮、介護や子育てなどといった公的なサービスの提供だけでは対応できない問題が増えています。

また、こうした困りごとは、福祉分野に限らず、医療、就労、教育などの生活全般に関する問題が複合的に絡み合っている場合も多いため、地域、ボランティア、団体・事業所、行政が連携し、包括的・総合的に支援していく必要があります。

これまでも、団塊の世代が75歳を超える「2025問題」を見据え、日常生活圏域において、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される仕組みである「地域包括ケアシステム」の構築が進められてきましたが、高齢者支援に特化した内容でした。現在、この「地域包括ケアシステム」の拡大・深化版として、国では新たに「地域共生社会」の実現を目指しています。

これは、高齢者だけでなく、障がい者、子ども等への支援も地域の中で包括的に提供できるような支援体制を構築し、地域の中で支え合いながら、年齢や障がいの有無に関係なく、全ての人々が住み慣れた地域で安心して暮らせることを目指しています。

この「地域共生社会」の実現のために、具体的な取組を示したのが「地域福祉計画・地域福祉活動計画」です。

この計画の中で、誰が、何を、どのように取り組んでいくのかを明確にし、東みよし町における「地域共生社会」の実現に向けて地域福祉を推進していきます。

2. 第3期東みよし町地域福祉活動計画の概要

(1) 計画の期間

第3期東みよし町地域福祉活動計画は令和3年度から令和7年度までの5年間の活動計画になり、最終年度には計画の評価・見直しを行います。なお、関連する他の計画との整合性や今後の社会情勢の変化、国及び町の動向により必要に応じて見直しを行っていきます。

■計画の期間

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
地域福祉活動計画	第2期	第3期東みよし町地域福祉活動計画					第4期

(2) 地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

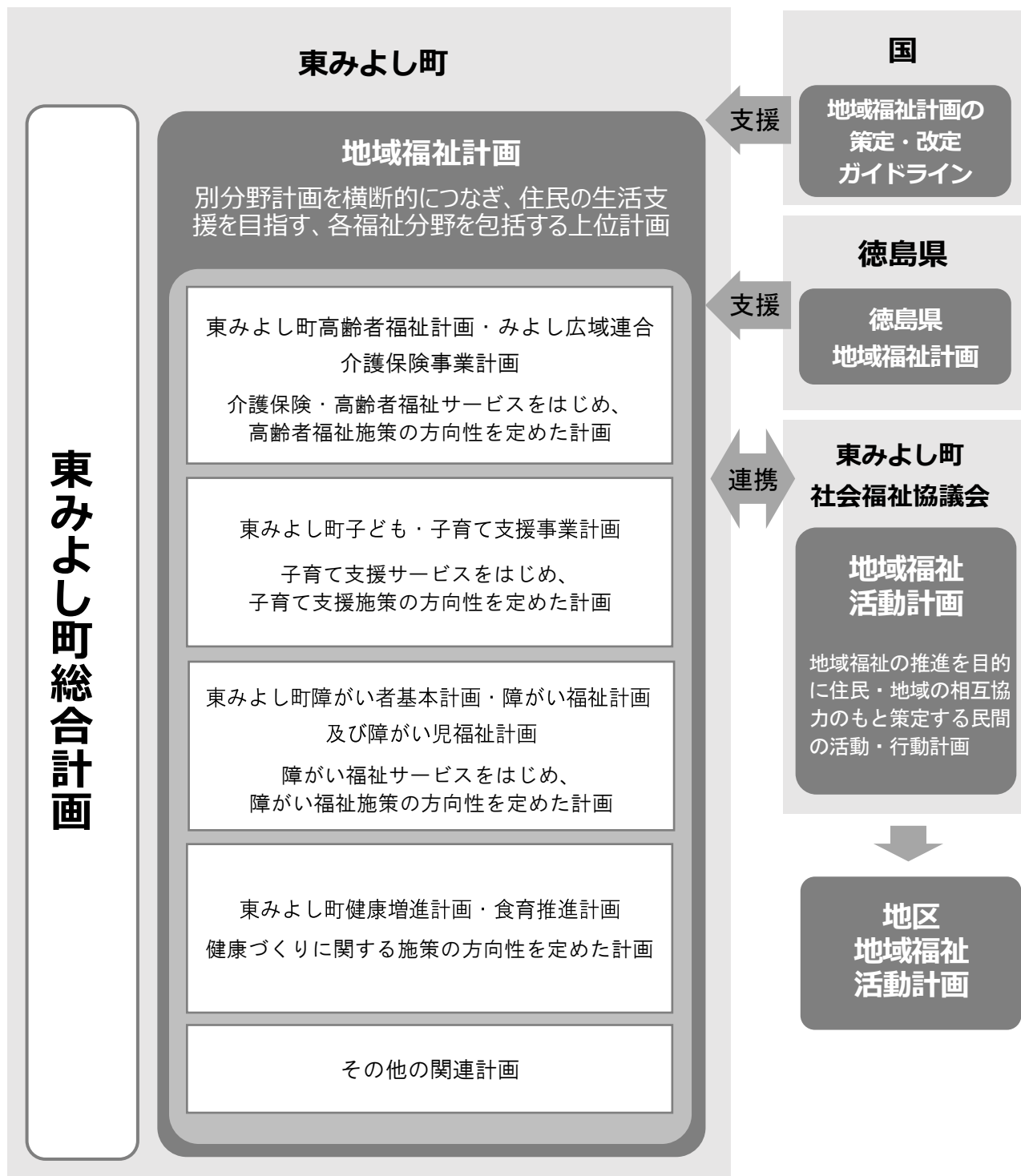
■『地域福祉計画』は社会福祉法第107条に基づき市町村が策定する行政計画であり、高齢者、子ども、障がい者・障がい児等を対象とする福祉事業における分野別計画の上位計画として位置づけるものです。

■『地域福祉活動計画』は民間組織である社会福祉協議会が策定する活動計画です。策定にあたっては市町村が策定した『地域福祉計画』の理念やビジョンを踏まえつつ、社会福祉協議会が地域住民や関係機関と連携し、地域福祉を推進するための具体的な取組を示します。

(3)計画の位置づけ

地域福祉計画は、社会福祉法の改正により他分野の福祉計画の「上位計画」として位置づけられました。福祉分野の各種個別計画をはじめ教育、就労など生活に関連する分野とも幅広く連携し策定する必要があるため部局を横断した町全体での取り組みが求められます。

地域福祉活動計画は地域福祉計画の理念やビジョンを踏まえて、地域住民や関係機関との連携により地域福祉を推進するための具体的な取り組みを明記することが求められます。



3. 第3期東みよし町地域福祉活動計画

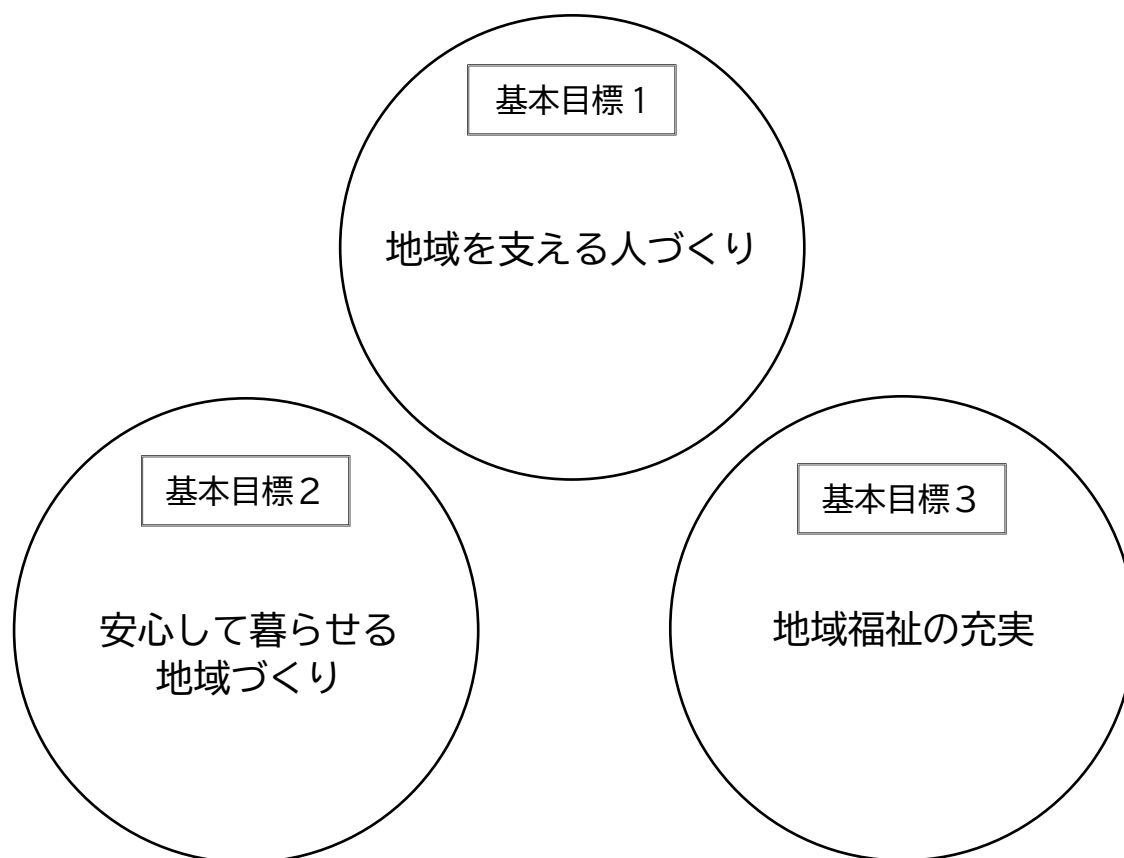
第3期東みよし町地域福祉活動計画

キャッチフレーズ

自然とやさしさ 心ふれあう福祉の郷

東みよし町第3期地域福祉計画で定める基本目標を、本活動計画の基本目標とし、『自然とやさしさ 心あふれる福祉の郷 東みよし町』を目指した取り組みを推進していきます。

■第3期東みよし町地域福祉活動計画における基本目標



東みよし町第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画で定める共通の基本目標

基本目標1：地域を支える人づくり ～人と人、地域とのつながり～

<地域課題>

- ・人と人とが顔を合わせて話す機会の減少
- ・冠婚葬祭の様式が変化し、ご近所付き合いの機会の減少
- ・活動の担い手が不足
- ・人が集まる機会の減少

(1) 顔の見える関係づくり

自分自身・家族の取り組み【自助】

- あいさつ運動を実践し、笑顔で顔を合わす機会を増やす
- 家族や気の合う仲間との話しあう機会をつくる
- 家族や隣近所に声かけをして福祉講座や地域行事に積極的に参加する
- 気軽にできることからやってみる

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 地域行事やイベント等、地域の人と交流できる機会をつくる
- 公民館や空き家を活用したサロンを開催して顔を合わす機会をつくる
- お互いに声を掛け合って福祉講座や地域行事に積極的に参加する
- 家族や地域でお互いに気にかけてあい助け合う

(2) 活動の担い手づくり

自分自身・家族の取り組み【自助】

- ボランティア活動に参加する
- 家族や気の合う仲間と気軽にできる活動に参加する
- 家族や隣近所に声かけをして福祉講座や地域行事に積極的に参加する
- 現在取り組んでいる活動を継続して実践する

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 地域行事やイベント等でボランティアが活躍できる場所をつくる
- 誰もが参加しやすい、性別、年齢に配慮した交流の機会を設ける
- だれもが気軽に集まれる場所をつくる

基本目標2：安心して暮らせる地域づくり ～安全・安心な地域づくり～

<地域課題>

- ・地域の絆、助け合い活動の推進
- ・災害に備える助け合いの仕組みづくり
- ・誰もが交流・活動できる場所づくり
- ・伝統行事の継承

(1) 見守り、支え合う地域づくり

自分自身・家族の取り組み【自助】

- 隣近所との交流を継続する
- 自分の困りごとを周囲に伝え、どういった支援が必要か共有する
- 自分にできる生活支援がないか考えてみる
- 緩やかに気をかけ合う

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 支え愛マップをつくり地域の課題を共有する
- ふれあい・いきいきサロンなど人と人の交流する場をつくる
- 地域の中で気になる人がいないか気にかける
- 自治会の集まりや井戸端会議などの交流の場に参加する

(2) 災害時に助け合える地域づくり

自分自身・家族の取り組み【自助】

- 防災訓練などに積極的に参加する
- 非常持ち出し品を備え一人ひとりが災害に備える
- 普段からのあいさつなどを通して見守りあえる関係をつくる

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 地域の高齢者や障害のある方などを把握し、どのような支援が必要か話し合う
- 自主防災組織などによる自分たちの地域を守る体制をつくる
- 支え愛マップや防災マップなどの見直しや訓練を行う

基本目標3：地域福祉の充実 ～福祉の充実により権利と尊厳を守る～

<地域課題>

- ・ 相談窓口の充実と関係機関の連携
- ・ 相談できる関係づくり
- ・ 認知症やひきこもりなどに対する正しい理解と把握
- ・ 排除をしないまちづくり

(1) 相談できる環境づくり

自分自身・家族の取り組み【自助】

- 身近な人の相談相手になる
- 困りごとは自分で抱え込まずにまずは相談する
- サロンや趣味の集まりなどに積極的に参加し、相談し合える関係をつくる

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 地域行事やイベント等、地域の人と交流できる機会をつくる
- 公民館や空き家を活用したサロンを開催して顔を合わす機会をつくる
- お互いに声を掛け合って福祉講座や地域行事に積極的に参加する
- 家族や地域でお互いに気をかけあい、助け合う

(2) 権利擁護の推進

自分自身・家族の取り組み【自助】

- 講演会や福祉学習の場などに積極的に参加する
- 相手のことを思いやり認めあえる絆を築く
- 相手の困りごとを『人ごと』にとらえずに『我が事』として考えてみる

隣近所・地域での取り組み【互助】【共助】

- 地域での見守り活動を継続・強化する
- 不安を抱えている人に気づき、耳を傾ける
- 認知症やひきこもりなどを正しく理解し、地域で支える体制をつくる

4. 地区地域福祉活動計画

大藤・毛田・中庄地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる中庄・毛田・大藤地区の特徴】 回答数 80

回答年齢

- 回答者80名のうち60代以上が84%（67名）

家族構成

- 核家族世帯（【夫婦のみ】または【夫婦と子ども】）が全体の59%と半数以上を占める。

地域の住みやすさ

- 全体の75%（60名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている
 - ➔理由：自分の家、土地に愛着があるから・近所に友人・知人など親しい人がいるから
- 全体の9%（7名）の方が住みにくい・大変住みにくいと感じている
 - ➔理由：交通の便が悪い、買い物や外出など生活の便が悪い

地域活動

- 地域活動に参加できない理由として最も多いのは「健康上の不安があるため」、次いで「仕事や家事で忙しいから」という結果となった。
 - ➔日中お仕事されている方は地域活動に参加するのは難しいため？

ボランティア活動

- ボランティア活動について、「現在参加している」または「～なら参加したい」と答えたのは全体の52%（42名）。
- 一方で「参加できない」「参加したくない」という方も19%（15名）いた。

困っていること

- 日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」で全体の約33%。
 - 次いで「草刈りやお墓掃除などの軽作業」という結果だった。

5年後に目指す地域の姿

- 地域のリーダーが高齢化してきているので、若手が多くかかわる
- 伝統行事を次の世代に継承し担い手が増える
- サロンや趣味活動など気軽に集まれる場所を増える
- 地域活動やサロンなどに多くの地域住民が参加している

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

顔の見えるつながりが減ってきた



取り組む内容

- ・あいさつの回数を多くする
- ・配りものの時に一声かける
- ・今まで通りの付き合いを続けていく

農業や趣味活動をする人が減ってきた



- ・自分自身の趣味活動を続けていく
- ・花づくりや道路愛護などのボランティア活動を続けていく
- ・まずは家庭内で野菜作りを伝承する

隣近所の取り組み【互助】

課題

困りごとが増えてきた



取り組む内容

- ・困っていないか声かけをする
- ・水や買い物など助け合う
- ・ゴミ出しなどお互いに手伝う

鹿、猪、猿などの野生動物が増えて農業の継続が難しい



- ・防護フェンスなどを設置する
- ・作物を守る方法を話し合う
- ・モンキー犬を増やす

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

高齢者を支援する人が少ない



取り組む内容

- ・友愛訪問活動などによる見守りをする
- ・高齢者相互で支え合う
- ・高齢者が担い手となり支援の輪を広げる

地域のお祭りなどの伝統行事の継承が難しい



- ・学校などを活用した防災活動
- ・地域行事に親世代だけでなく若い世代も参加する
- ・いろんな人や地域の良さを知る

西庄地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる西庄平坦地区の特徴】 回答数 93

地域の住みやすさ

●全体の73%（67名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている

●全体の5%（12名）の方が住みにくいと感じている

- 理由：・住居の立地条件（自然環境等）が悪い ・交通の便が悪い ・地域の行事が大変
・ご近所付き合いがわずらわしい

その他の意見：【いい人もいますが、自己中で誹謗中傷する住民が多すぎる】など人間関係に関する悩みもあった。

住みやすさの理由

●1位：自分の家、土地に愛着があるから（46名）

2位：買い物や外食など生活の便がいいから（37名）

3位：近所に友人・知人など親しい人がいるから（34名）

→「買い物や外食」に関しては満足している人が多いことが分かった。

【町全体のアンケート】

1位：自分の家、土地に愛着～

2位：自然環境がいいから

3位：近所に友人・知人など～

4位：買い物や外食など生活の便が～

ご近所付き合い

●最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」（59名 54%）

その他の意見：

→【物をあげたりもらったり】【物品の交換など】とご近所とやり取りをしている人もいる。

今後望む地域活動

●最も多かったのは「昔ながらのお祭りや季節の行事の伝承」（29名）

→続いて「地域住民の健康を増進するための活動」「今のままでいい」（28名）が多かった。

困っていること

●日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」。（47名 45%）

続いて多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」（12名）と「お身体の健康問題（病気・通院等）」（10名）

→その他の意見：【高いところでの作業、重いものの取り扱い】のようなちょっとした困りごとでも挙げられていた。

5年後に目指す地域の姿

○健康を維持して元気な高齢者の多い地域

○あいさつを通じた会話と笑顔のたえない地域

○子どもも大人も一緒になったご近所付き合いが活発な地域

○西庄さんわ推進会などの活動により、昔ながらのお祭りや季節行事が継承される

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

人と会っても話す機会が減ってきた



取り組む内容

- ・相手の目を見てあいさつをする
- ・姿を見たら積極的に声をかける
- ・他人に気をかけ自分事と感じる

行事への参加者や趣味活動をする人が減ってきた



- ・まずは自分が参加してみる
- ・共通の趣味の集まりに参加する
- ・世代が交流する行事を増やす

隣近所の取り組み【互助】

課題

顔を合わす機会が減ってきた



取り組む内容

- ・隣近所へ自治会への参加を誘い合う
- ・散歩途中などで出会ったらあいさつする
- ・サロンや趣味活動など外に出かける

ボランティア活動



- ・地域の清掃などに若い世代も参加する
- ・公民館や神社、公園など協同での作業を継続して定期的に行う
- ・家庭内でのごみ0運動の実践

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

地域活動を継続するのが難しい



取り組む内容

- ・防災やボランティアをキーワードに新たな地域活動にとりくむ
- ・多くの人に関わり、役割をもち継続する

世代交流の機会が減った



- ・小学校と老人クラブの交流を続ける
- ・子どもの集まる機会を増やし多世代交流の場をつくる
- ・ボランティアを通じた交流を続ける

西庄・絵堂地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる西庄・絵堂地区の特徴】 回答数 26

回答年齢

- 回答者26名のうち最も多かった年齢は80代（9名）

地域の住みやすさ

- 全体の73%（19名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている
 - ➔理由：①自分の家、土地に愛着があるから
 - ②自然環境がいいから・近所に親しい人がいる
- 全体の4%（1名）の方が住みにくく感じている ➔理由：買い物や外食など生活の便が悪い

ご近所付き合い

- 最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」
 - ➔町全体の回答で最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」だったので、西庄山間地区の特徴といえる。
- 「ご近所と全くお付き合いをしていない」という回答は0名だった。
 - ➔何らかの形でご近所と関りをもっていることが分かった。

地域活動

- 「地域住民の健康を増進するための活動」を望まれている人が多かった。

困っていること

- 日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」。(全体の26%)
続いて多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」と「お身体の問題（病気・通院等）」。
 - ➔回答者の半数が60代以上だったが、こまっていることは「特になし」が多かった。2番目に多い困りごととして、草刈りやお墓の掃除などのちょっとした困りごとが挙げられた。
 - 山間部の困りごととして、買い物や移動手段が多いと予想していたが、実際はそうでないことが明らかになった。

災害時の避難

- 災害時に避難できると思う 31%
災害時に避難できないと思う 65%
- ➔【避難できないと思う理由】として最も多かったのが「避難所が遠いから」だった。避難所が遠いため辿り着くまでが危険と感じている人が多かった。

【町全体のアンケート】

災害時に避難できると思う 51%
災害時に避難できないと思う 45%

5年後に目指す地域の姿

- 過疎が進んだとしても、人と人とのつながりが残っている
- 自分たちも楽しんで地域行事を継続している
- となり近所でお互いに協力し合って、支え合う地域
- 自助・互助・共助による災害に強い地域

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

ご近所付き合いが減ってきた



取り組む内容

- ・声かけや話す機会を持つ
- ・忙しいときにはお互いに助け合う
- ・困ったときに相談をする

地域での生活がしづらくなってきた



- ・買い物や通院の車に便乗させてあげる
- ・農作物や特産品の新しい活用を考える
- ・サロンや趣味サークルなどの参加を呼び掛ける、参加する

隣近所の取り組み【互助】

課題

ご近所付き合いが減ってきた



取り組む内容

- ・お茶会や井戸端会議を開く
- ・用事を頼んだり頼まれる
- ・地域の行事に家族ぐるみで参加する

一人暮らしが増えてきた



- ・人にあつたときには声をかける
- ・気になったらのぞいてみる
- ・お互いに気をかけあう、助け合う

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

地域交流と地域の活性化
緊急対応



取り組む内容

- ・移動をできるだけ歩いて声かけをする
- ・農作業や地域の行事など助け合う
- ・高齢者自身が担い手になり役割を持つ
- ・小学校などを活用してイベントを実施
- ・空き家の有効活用
- ・防災を西庄・絵堂地域全体で考える機会を持ち、自治会をこえる交流をする
- ・次の世代に地域を残していく

加茂地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる加茂地区の特徴】 回答数 245

地域の住みやすさ

- 全体の80%（195名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている
 - ➡町全体のアンケートでは72%が大変住みやすい・住みやすいと感じていた。加茂地区はそれ以上の方が住みやすさを感じている。
- 全体の5%（12名）の方が住みにくいと感じている
 - ➡理由：・住居の立地条件（自然環境等）が悪い ・交通の便が悪い
 - その他の意見：【人間関係に敏感すぎる】など人間関係に関する悩みもあった。

住みやすさの理由

- 1位：自分の家、土地に愛着があるから（140名）
- 2位：買い物や外食など生活の便がいいから（129名）
- ➡町全体のアンケートでは「買い物や外食など生活の便がいいから」は4位だった。加茂地区の方々は「買い物や外食」に関しては満足している人が多いことが分かった。

ご近所付き合い

- 最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」
- その他の意見：
 - ➡【神社の草取り・清掃のあとお茶会をして解散するのが楽しかった。今は疎遠で孤独、時々電話やはがき交流をしてそれが楽しいだけ】と、昔と今のご近所付き合いの変化により、交流が減って孤独を感じている人もいる。

今後望む地域活動

- 最も多かったのは「地域の防災力を高めるための訓練」（90名）
- ➡町全体のアンケートでは「昔ながらのお祭りや季節の行事の伝承」が最も多かった。

困っていること

- 日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」。(全体の46%)
- 続いて多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」（12%）と「お身体の健康問題（病気・通院等）」（12%）。
- ➡その他の意見：【高いところでの作業、重いものの取り扱い】のようなちょっとした困りごとも挙げられていた。

5年後に目指す地域の姿

- 無理のない自治会活動を継続していく
- 男性も積極的に参加できる地域活動が多く増えている
- サロンや趣味サークルなどの気軽に集まれる場所が多くある
- 地域が一体となった防災活動に取り組んでいる

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

健康・活動



取り組む内容

- ・ウォーキングなど自分の健康を保つ
- ・ながら活動〔運動しながらゴミ拾い〕
- ・外出する機会を持つ

お付き合いや支え合いの
機会の変化・減少



- ・年代のよく似た世代からでも付き合いを深める
- ・お互いにあいさつをしあう
- ・常に連携を取り、見守り支え合う

隣近所の取り組み【互助】

課題

お付き合い



取り組む内容

- ・お隣さんとの会話や交流を増やす
- ・家族、ご近所同士のあいさつをする
- ・自治会での集まる場を作る、参加する

地域行事、文化



- ・冠婚葬祭の形は変わったが気にかけて声をかけて手伝いあう
- ・まつりに子どもぐるみで参加する
- ・次の世代に町の文化を残していく

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

地域連携、つながり



取り組む内容

- ・集まる機会を増やし地域で連携する
- ・自治会の総会などに複数人で参加する
- ・サロンなど気軽に集まれる場所づくり

地域防災活動



- ・継続して防災訓練を実施する
- ・隣近所の助け合いの連絡網の整備
- ・防災活動をキーワード性別、世代を超えて集まる機会を定期的に確保する

足代地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる足代地区の特徴】 回答数 115

地域の住みやすさ

●全体の68%（78名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている

- 理由：①自分の家、土地に愛着があるから
②自然環境がいいから

●全体の6%（7名）の方が住みにくいと感じている

- 理由：・交通の便が悪い
・買い物や外食など生活の便が悪い
・働く場所が少ない

その他の意見：【マップで危険地域になっている為

地震で山崩れが発生するかとハラハラする】という災害への不安の声もあった。

【町全体のアンケート】

1位：交通の便が悪い

2位：買い物や外食など生活の便が～

3位：住居の立地条件が悪い

足代地区で「住居の立地条件が悪い」を選択したのは1名だったので、満足している方が多いことが分かった。

ご近所付き合い

●最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」

- その他の意見：【作ったものを交換（おかず）（マスク）（野菜）】との意見があり、ご近所と良好な関係を保っている方もいる。

地域活動

●全体の約86%の方は何らかの地域活動に参加されているが、その一方で11%の方はなにも参加していない。

- その他の意見：【若い時は自治会活動、ボランティア活動をしていたが歳を取ったから】高齢により参加できなくなったという意見もあった。

ボランティア活動

●環境美化と高齢者に関する活動を望んでいる人が多かった。

- その他の意見：【外国人への支援】【地域の安全を守る活動】を望んでいる意見もあった。

困っていること

●日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」。(全体の38%)

続いて多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」と「お身体の健康問題（病気・通院等）」。

＊＊5年後に目指す地域の姿＊＊

○今行っている自治会活動を残していく

○自主防災会、老人会、婦人会などの様々な機関が連携してリーダーを育成する

○文化や生活様式が変化してもこれまでの住民同士の関りを残していく

○世代を交えた交流の機会が多くある

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

健康・社会参加



取り組む内容

- ・まずは自分自身が健康に気をつける
- ・規則正しい生活をする
- ・趣味やサロンなど積極的に参加する

防災



- ・自身の防災意識を高める
- ・自主防災活動に参加する
- ・となり近所を気にかけて助け合う

隣近所の取り組み【互助】

課題

自治会・社会参加活動



取り組む内容

- ・行事へは家族、隣近所誘い合って参加する
- ・ボランティア活動へ参加する
- ・老人クラブや婦人会等への加入を勧める

つながり



- ・向こう三軒両隣で気にかけていく
- ・家族で一日一回は食事をし会話する
- ・世代や団体をこえた交流からリーダーを発掘する

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

助け合い・支え合い



取り組む内容

- ・隣り近所とのあいさつを地域に広める
- ・ボランティア活動の内容を周知し募る
- ・助け合いが必要な人の情報を共有する

社会参加、地域行事



- ・季節の行事を続けていく
- ・防災を考える会を核にした地域防災活動
- ・祭りなどの伝統文化の継承とリーダーの育成

昼間・増川地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる昼間・増川地区の特徴】 回答数 146

地域の住みやすさ

- 全体の66%（96名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている
 - ➔理由：①自分の家、土地に愛着があるから
 - ②自然環境がいいから
- 全体の4%（6名）の方が住みにくいと感じている
 - ➔理由：・交通の便が悪い
 - ・買い物や外食など生活の便が悪い

ご近所付き合い

- 最も多かったのは「顔を合わせたときあいさつをする程度」
その他の意見として、【畑で採れた野菜・果物をいただく】【洗濯物を干しながら長話をしたり、回覧板を持ってきてくれた時に長話をしたり】との意見があった。
 - ➔ご近所との挨拶だけでなく、交流を持っている方もいることが分かる。

地域活動

- 全体の約80%の方は何らかの地域活動に参加されている。

ボランティア活動

- 環境美化と高齢者に関する活動を望んでいる人が多かった。

困っていること

- 日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「特になし」。(全体の40%)
続いて多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」と「お身体の健康問題（病気・通院等）」。

5年後に目指す地域の姿

- 小地域での活動を継続している
- 防災による地域づくりがすすんでいる
- サロンや運動会などを通じた顔の見える関係性から、お互いに気かけあう地域になる
- ICTなどの新しい仕組みを取り入れた地域交流活動に取り組んでいる

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

いきがづくり

取り組む内容

- ・趣味活動の回数を増やす
- ・毎日を前向きに過ごす
- ・ボランティアを通じたいきがづくり

声かけ・お付き合い

- ・歩いている人を見かけたら積極的に声をかける
- ・自分自身イベントや祭りなどに参加する
- ・趣味や気の合う友人を作る

隣近所の取り組み【互助】

課題

地域の絆、助け合い

取り組む内容

- ・思いやりの心を持ち声をかける
- ・とより近所で情報共有をはかる
- ・家族、ご近所お互いに気にかけてあう

つながり、居場所づくり

- ・世代や区分をこえた交流によりリーダーを発掘する
- ・サロンなどの集まれる場所にでかける
- ・趣味の場を多く持つ

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

地域の活性化

取り組む内容

- ・民泊や特産品を活かす
- ・お祭りや運動会などの交流の機会を作る
- ・協同作業による文化の伝承

地域づくり、リーダーの育成

- ・防災訓練を通じた地域づくり
- ・参加者自身が役割を負担し合い協同でのリーダーによる地域づくり
- ・草刈りや街並み整備し文化を伝承する

東山地区地域福祉活動計画

福祉のまちづくりに関するアンケート調査結果

【アンケート結果から読み取れる東山地区の特徴】 回答数 21

回答年齢

- 回答者21名のうち最も多かった年齢は60～70代（14名）

地域の住みやすさ

- 全体の62%（16名）の方が大変住みやすい・住みやすいと感じている
 - ➡理由：自分の家、土地に愛着があるから・自然環境がいいから
- 全体の26%（6名）の方が住みにくい・大変住みにくいと感じている
 - ➡理由：交通の便が悪い、買い物や外出など生活の便が悪い

ご近所付き合い

- 「ご近所と全くお付き合いをしていない」という回答は0名だった。
 - ➡何らかの形でご近所との関りをもっている。

地域活動

- 地域活動に参加できない理由として最も多いのは「健康上の不安があるため」
 - ➡高齢者が多い地域であるため、その分健康に不安を抱えている方が多いのではないか？

ボランティア活動

- ボランティア活動について、「現在参加している」または「～なら参加したい」と答えたのは全体の66%（14名）と意欲的だった。

困っていること

- 日常生活で困っていることについて、最も多かったのは「草刈りやお掃除などの軽作業」。
 - ➡山間部といえは「食品や日用品などの普段の買い物」や「移動手段」が課題として挙げられそうにとられがちだが異なる。移動スーパーの活用や、普段から平坦部ほど買い物に行く習慣がないため、あまり不便と感じていないのではないかと推測される？

5年後に目指す地域の姿

- 顔の見える関係、助け合える関係、気かけあう関係が5年前と変わらずに続いている
- 空き家を活用した地域づくりがすすんでいる
- ひとりひとりを地域全体で支える地域になっている
- 誰もが情報を気軽に得ることができる地域になっている

地域の課題と実践する取り組み

自分自身・家族の取り組み【自助】

課題

生きがいづくり

取り組む内容

- ・老人クラブ、婦人会等の活動に参加する
- ・できるだけ外出を心掛ける
- ・ボランティア活動に参加する

思いやりのこころ

- ・相手の気持ちを理解する
- ・誘い合って声かけ運動をする
- ・人の話をじっくり聞いてみる

隣近所の取り組み【互助】

課題

思いやり、絆づくり

取り組む内容

- ・お隣を気にかける
- ・立ち止まって会話をする機会を増やす
- ・積極的に話し相手になる

生きがいづくり

- ・サロンや公民館活動を活発にする
- ・ものづくりを通じたいきがいづくり
- ・趣味やスポーツを通じた自分自身の健康づくり

自治会など地域での取り組み【共助】

課題

仲間づくり、絆づくり

取り組む内容

- ・高齢者同士で助け合う
- ・各種団体の活動を強化する
- ・まつりに地域全体でかかわり残していく

地域づくり

- ・周辺の手入れして生活範囲を守る
- ・学校や公民館を活用する
- ・野菜や地域の資源を活用してほかの地域から東山に人が来るイベントを実施する